

## 柳田国男日記の行方

1997.5現在  
小田 富英

年 月 日	確 認 さ れ て い る 事 実	根 拠
昭和39年(1964) 10月25日 定本第34回発売 別巻4  11月25日 定本第35回発売 第31巻	田山花袋旧蔵の日記と書簡が発見され、筑摩書房からその定本収録をお願いしたところ、孝夫人は言下に「焼いてしまった」と言う。	蟹沢メモ
昭和43年(1968) 2月	『柳田国男集』（日本現代文学全集36巻）の年譜のなかに「日記から」という箇所がある。（明治39年）	同書
昭和46年(1971) 3月24日  5月30日 定本最終回発売 別巻5	遠野物語記念碑除幕式にて鎌田久子氏が、山下久男氏に遠野行きの際の手帳の存在を教える。  年譜作成時に日記（手帳的な小さなもの）が使われている。「日記から」の項目削る。	山下「佐々木喜善先生と・・・」  蟹沢メモ
昭和47年(1972) 夏か初秋  11月	孝夫人が、三千（堀一郎夫人）を電話で呼び、風呂敷包み一抱えの日記を持ってこさせた。これは、牧田茂が、『柳田国男』（中公新書）執筆のための資料として見せて欲しいと隠居所を訪ねた折りのこと。牧田茂『柳田国男』刊行。「七月三十一日」の日記を掲載する。	為正氏談
昭和47年(1972) 12月12日	孝夫人死去 86歳	
昭和48年(1973) 11月	『短歌』臨時増刊号の座談会「『古代研究』前後」において角川源義が柳田の恋愛日記を孝夫人が焼いたことを発言。	
昭和49年(1974) 2月24日	為正氏が、成城大学文化史研究室に鎌田久子氏を訪ねる。日記の件は聞くつもりではなかったが、鎌田氏の方から、「私は、先生の日記をお預かりしている。目下専念取り調べ中です。」というようなことを言われる。とても意気盛んの様子であった。	為正氏談
昭和50年(1975) 2月24日  8月	鎌田氏『岩手日報』に「『遠野物語』下染め」を発表。  桜井徳太郎は、『先祖の話』（筑摩叢書）の解説で次のように述べる。 「柳田国男は生涯を通じ実に丹念に日記を書いている。その一部は、すでに公表されて、われわれの目に触れているが、いうまでもなくそれは九牛の一毛に過ぎない。	『先祖の話』10月刊行

	<p>日記の全部が公けにされたら、柳田国男研究に画期をもたらすことになろう。また柳田国男像も大きく変わるかも知れない。」</p> <p>鎌田久子氏『柳田国男著作文庫』（旺文社文庫）の年譜作成。「日記から」の項目削る。</p>	
--	--	--